

(Center for Comprehensive Obesity Care and Outreach:COCO)

## 肥満症総合ケア・アウトリーチセンターの開設について

肥満症総合ケア・アウトリーチセンター センター長

かなさき  
金崎 啓造

当院では、新たに肥満症総合ケア・アウトリーチセンター(COCO)を設置しました。

“アウトリーチ”とは地域の隅々まで届けることを意味し、その理念のもと、専門的な肥満症医療の提供と啓発活動を進めていきます。

肥満症は、遺伝素因・生活環境・心理社会的背景が複雑に関与する慢性進行性疾患であり、画一的生活介入だけでは十分な改善が難しく、多面的・継続的な医療が必要です。

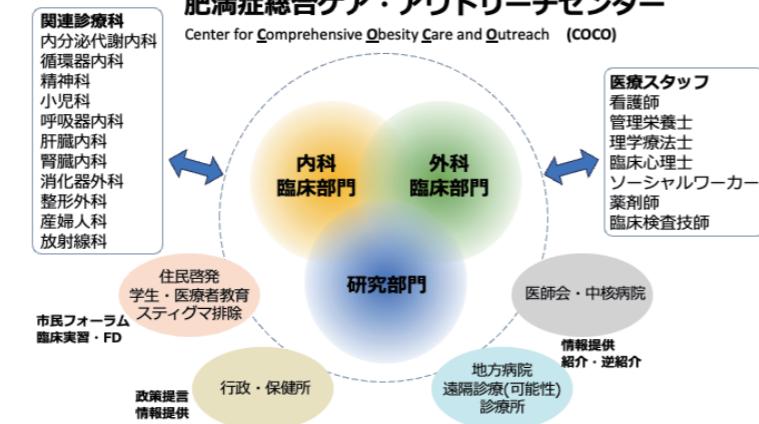
COCOの特徴は、肥満症診療に関する11の診療科が参画する包括的連携体制です。医師と医療スタッフが協働し、患者さんの医学的・心理的・社会的背景を踏まえて介入を行います。

COCOは、内科臨床部門・外科臨床部門・研究部門の三本柱で構成され、臨床と研究を一体化した体制を整備しています。代謝改善手術の適応評価や術後管理もセンターで一元的に行い、治療の幅を広げていきます。

地域医療機関や行政との連携も重視し、島根県全体の肥満症対策の推進に貢献して参ります。ご紹介は「肥満症総合ケア・アウトリーチセンター」または「内分泌代謝内科」へ。

問い合わせ先

肥満症総合ケア・アウトリーチセンター(内分泌代謝内科医局) TEL:0853-20-2183



## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2026年1月15日～3月14日

対象者：一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12月1日(月)～2026年2月28日(土)	令和7年度第3回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センターホームページ上の動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
1月23日(金) 14:30～15:30	誰でも参加できる糖尿病教室 2025年度第5回	ゼブラ棟2階だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
1月24日(土) 13:30～15:45	AYA世代における遺伝性腫瘍症候群～早期発見と患者・家族支援の実践～	ゼebra棟2階だんだん ※ハイブリッド形式	医療 本学	島根大学・岡山大学・香川大学・鳥取大学・徳島大学連携 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 事務局 島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター
2月6日(金) 18:00～19:00	2025年度先進医療に関する講演会	みらい棟4階ギャラクシー ※ハイブリッド形式	医療 本学	島根大学医学部附属病院 先進医療管理センター
3月1日(日) 13:30～16:00	松江市民フォーラム～島根大学病院の最新治療～ テーマ：難病について	★くにびきメッセ 6階 601大会議室	一般	島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



2026年  
**1月**  
 Vol.147

Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

NEWS
CONTENTS

・ 2026年頭のご挨拶  
街の中にいつも大学病院

・ 病院長補佐就任のご挨拶(経営担当)

裏表紙  
・ 肥満症総合ケア・アウトリーチセンターの開設について

裏表紙  
・ 研修会・講演会・セミナー開催情報

# 2026 年頭のご挨拶

## 街の中にいつも大学病院

病院長 しいな ひろあき  
椎名 浩昭



あけましておめでとうございます。平素より島根大学病院の運営に、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

近年、新型コロナウイルス感染症への対応や医師の働き方改革の本格施行など、医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えております。その影響は病院経営にも及び、現在、全国の国立大学病院の約八割が赤字経営に陥っており、当院も厳しい財政状況の中で運営を続けています。背景には、物価や人件費の上昇、医薬品・医療材料の高額化に加え、小児医療、救急医療、べき地医療といった、地域に不可欠でありながら採算確保が困難な医療を大学病院が担っている現実があります。

それでもなお、島根大学病院は地域医療の「最後の砦」としての役割を果たし続けなければなりません。経営の効率化や業務改善に不斷に取り組みつつ、地域の皆さまの命と健康を守る責任を最優先に考える姿勢に変わりはありません。

昨年、島根大学医学部は創立五十周年を迎えました。この節目にあたり、当院は大学の「知」と地域社会の「地」を結ぶ「知と地の連携」を、より実効性のあるかたちで進めていく決意を新たにしています。地方の大学病院には、最先端医療を生み出すだけでなく、それを地域に根付かせ、広く届ける役割があります。

これからも、街の中にいつもある大学病院として、地域と課題を共有しながら、持続可能な医療提供体制の構築に取り組んでまいります。本年も引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## (経営担当) 病院長補佐就任のご挨拶

消化器・総合外科 教授 ひだか まさあき  
日高 匠章



このたび病院長補佐（経営担当）を拝命いたしました、消化器・総合外科の日高匡章です。昨今の医療経済は、全国的に診療報酬の伸び悩みや人件費・物価の上昇が重なり、多くの医療機関が厳しい経営環境に直面しております。当院も例外ではなく、地域に不可欠な高度急性期医療を担いながら、持続可能な運営をいかに確保するかが大きな課題となっています。

こうした状況下で病院長補佐を拝命したことを、重責であると同時に、組織の将来を共につくる機会と捉えております。地域に根差し、先進医療を両立させる大学病院として、診療・教育・研究の質を落すことなく、医療安全と働きやすい職場環境を両立させる仕組みづくりに取り組んでまいります。また、各部門との連携を強化し、現場の声を経営へ反映させることで、地域医療に根ざした病院運営を進めたいと考えております。

とりわけ今後は、次世代を担う医療人の育成が、地域医療の持続性に直結すると考えております。若手が誇りとやりがいを持ち、挑戦できる環境で培われた経験や知見が、患者さんに還元され、さらには地域医療の質を高めていく力となります。そのためにも教育体制の充実と、医療安全文化の深化に取り組み、人材が定着・成長できる土壌づくりを進めてまいります。

医療の厳しい時代だからこそ、組織一人ひとりの力が病院の未来を支えます。共に力を合わせ、持続可能な病院経営と質の高い医療提供に取り組む所存です。今後ともご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先 消化器・総合外科 医局 TEL:0853-20-2232



島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



会場の様子

## 心不全多職種チームが学会に参加しました

循環器内科 たなべ 淳也

当院では、循環器内科医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、臨床工学技士、臨床検査技師などによる多職種チームで、心不全患者さんの療養支援に取り組んでいます。

10月10日(金)～12日(日)に開催された第29回日本心不全学会学術集会には、心不全多職種チームのスタッフが参加し、心不全における多職種連携や地域連携について、最新の知見や他施設での取り組みを学びました。

当院からは循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、理学療法士、臨床検査技師が市民公開講座を含め、計7演題を発表しました。心臓リハビリテーションのセッションにて、当院の杉原辰哉臨床検査技師が、「臨床検査技師による心肺運動負荷試験の活用体制の構築と多職種連携の実践」の発表で最優秀賞を受賞しました。

また、心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職の資質向上を目的として、2021年度より「心不全療養指導士」認定制度が開始されており、当院循環器内科では資格取得を推進しています。今回の学会には心不全療養指導士を目指して勉強中のスタッフも参加しました。

今後も、学会で得た知見を日常診療や多職種連携、地域連携に活かし、心不全患者さんの療養・生活支援をより充実させてまいります。

問合せ先 循環器内科医局 TEL: 0853-20-2249



島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



## 第30回消防競技大会に出場しました

会計課施設管理室長 よしだ 吉田 泰樹

消火器の基本的な取り扱いと消火技術を競うことにより、火災発生時における迅速・的確な対応ができる体制を確立するとともに効果的な初期消火活動により、被害の軽減を図るための技術を体得することを目的として、出雲市消防本部の主催で、出雲市防災安全協会加入事業所を中心に平成4年から開催され、本学は第1回大会から今大会まで連続出場をしております。

今年は10月8日(水)に開催され、男子の部に、看護部から岩崎寛大看護師(A6病棟)、上田晃久看護師(B6病棟)、女子の部に紀青職員(総務課)、天野美紀子職員(医療サービス課)が参加しました。

大会の操作要領に沿って事前練習を行い、操作手順だけではなく、規律や姿勢の練習にも積極的に取り組み本番を迎えました。

大会は男子チームが15チーム、女子チームが5チームの出場者で競い、どのチームも練習の成果を発揮し、白熱した展開となりました。島根大学チームは、男女ともに惜しくも入賞は逃しましたが、競技中の選手のはつらつとした姿はとても感動しました。特に男子チームは競技タイムが全体の2番目で、順位も6位と健闘しました。

今後も、火災に対する意識向上を目的とした活動の一環として、消防競技大会への参加を続けていきたいと思います。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2051



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告

## 島根県の慢性透析症例数は減少傾向に！

統合腎疾患制御研究・開発センター（IKRA）センター長

かなさき けいぞう  
金崎 啓造

島根県では、2019年以降、SGLT2阻害薬の適正使用をハイリスク糖尿病症例に対して積極的に推進し、その後も心不全や慢性腎臓病（CKD）を対象とした処方が着実に拡大してきました。さらに、2型糖尿病を合併するCKDに適応をもつフィネレノン（ケレンディア<sup>®</sup>）の導入も急速に進みました。また、糖尿病・非糖尿病を問わずCKDの進展抑制に向けた介入を強化するとともに、腎不全に至った患者さんへの腎移植も、2025年11月時点までに15例実施されています。

こうした取り組みの結果、2019年まで増加の一途を辿っていた慢性透析療法症例数は減少傾向へと転じ、2024年末には確実な減少が確認されました（図1）。

さらに、全国の都道府県データを解析すると、SGLT2阻害薬（臨床的エビデンスを有する薬剤）の処方増加率と、透析患者数の変動〔(2019→2023) - (2014→2019)〕には統計学的に有意な逆相関が認められ、島根県はその中でも特に顕著な抑制を示していることが明らかとなりました（図2）。

これらの結果は、島根県において糖尿病合併、あるいは非糖尿病のCKDに対して、科学的根拠に基づく治療介入が全国に先駆けて実践されていることを強く示しています。

島根大学医学部統合腎疾患制御研究・開発センター（IKRA）では、腎疾患制御に関わる基礎研究・臨床研究のみならず、今回のような大規模データベース解析も積極的に推進し、島根県のみならず世界の腎疾患制御に貢献する情報発信を今後も続けてまいります。

問合せ先 内科学講座（内科学第一） TEL：0853-20-2183



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告

## 心理編

### データで読み解く患者満足度アンケート —行動経済学×統計学から探る評価の裏側—

患者満足度向上WG

かわむら としひこ

医療情報部 准教授 河村 敏彦

2024年度に実施した入院患者アンケートでは、食事に「不満」と回答した方が約15%にのぼり、自由記載欄へ多くの意見が寄せられました。一方、栄養治療室の「食事アンケート」では、満足度スコアはそれ一般食85.3点、治療食80.3点と高い水準を示しています。このギャップはどこから生まれるのでしょうか。

行動経済学では、他と比較することで評価が変わるコントラスト効果が知られています（図1）。たとえば、医師や看護師の対応が非常に良かった場合は、それと比べて食事の印象が見劣りしてしまうといったものです。こうした相対評価の心理が、不満の背景の一因になっている可能性があります。

さらに、自己決定バイアスも重要な視点です（図2）。人は、自分で選んだと感じるサービスに対して、より高い満足感を抱きやすい傾向があります。たとえば「ご飯かパンが選べる」「果物のカットが選択できる」といったサービスがあっても、その情報が伝わっていなければ選んだ実感が生まれず、満足にはつながりにくくなります。

当院では、こうした患者さんの感じ方にも配慮し、食事サービスの「見せ方」にも工夫を加えています。案内チラシやポスターを活用し、選択可能なサービス内容をより分かりやすく伝えることで、「自分で選べた」という実感を持っていただける環境づくりを進めています。



図1 コントラスト効果



図2 自己決定バイアス

問合せ先 医療サービス課 TEL：0853-20-2067



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



## 第33回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会を開催しました

総務課総務係

11月25日(火)に「第33回患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました。本委員会は年3回実施し、地域住民との意見交換を通じて病院運営に地域の声を反映することを目的としています。当日は外部委員6名を含む15名が出席しました。

冒頭、病院長より「チーム医療の重要性が高まる中、多職種が協働し、地域や他病院との役割分担を踏まえて貢献していくことが必要です。本日も率直なご意見をお願いします。」と挨拶がありました。

議事では、外部委員の皆様より、ご自身やご家族の入院経験を踏まえたご意見を多数いただきました。スタッフの接遇に対する高い評価に加え、「この地域に当院があることで安心できた」との嬉しいお声も頂戴しました。一方で、患者さんから寄せられたお叱りの声や要望についてもご指摘があり、引き続き改善に取り組むこととしています。

具体的には、待合モニターの表示切替が早く読みづらい点や掲示内容の分かりにくさについて改善要望があり、対応を検討することとしました。このほかにも活発な意見交換が行われ、地域の皆様にとって「安心できる病院」であり続けるための課題を再認識する機会となりました。

今後も、地域の皆様の声を広く伺いながら、患者さんの視点を重視した医療提供と病院運営を進めてまいります。

写真1



委員会の様子

問合せ先 総務課総務係 TEL : 0853-20-2015・2016



島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



## 白衣授与式を実施しました

学務課学生支援担当

12月11日(木)、白衣授与式を開催しました。本式典は、学生に白衣を授与し、1月からの臨床実習に気持ちを新たに臨んでもらうため開催しているものです。

医学部医学科の学生は4年次1月より臨床実習に臨みます。臨床実習は、4年次から5年次を臨床実習Iとして、1年間で附属病院の全診療科をローテーションで回り実習を行います。5年次から6年次を臨床実習IIとして、内科系診療科と外科系診療科の中からそれぞれ3つの診療科を選択して実習を行います。

さらに、最後の4週間は附属病院だけでなく県内外の病院での実習や海外研修を行います。この臨床実習の中で、学生はこれまで学んだ医学の知識・技能を生かして臨床能力を身に着けていきます。

白衣授与式では、医学部長と病院長がそれぞれ激励の言葉を贈り、続いて白衣を学生一人ずつに手渡しました。竹谷医学部長からは「目の前の患者さんの心に寄り添いながら、真摯に取り組んでください。」、椎名病院長からは「今後は医療人としての行動が求められます。患者さんの前では、良い成績を取ることよりも、人間としての対応が重要となるため、島根大学医学部を背負っていることを自覚した行動を期待しています。」といった言葉が述べられました。

参加した学生たちは、引き締まった表情でまっさらな白衣を受け取りました。臨床実習においては、様々な困難に直面すると思いますが、患者さんのため、チームのため、地域のために、責任ある行動を一貫してとれる人間性を培い、課題を乗り越えていくことを願っています。

問合せ先 学務課学生支援担当 TEL : 0853-20-2088



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



写真右側が著者

## 塩治地区文化祭に参加しました

A病棟5階 副看護師長 とや 鳥谷 英二

11月8日(土)、塩治コミュニティセンターで開催された塩治地区文化祭に参加しました。一昨年から再開された文化祭に、昨年に続き今年も看護師3名で「島根大学医学部附属病院 看護師健康コーナー」を開設し、健康相談と血圧測定を行いました。

当日は天候にも恵まれ、会場は多くの来場者で賑わいました。私たちの健康コーナーには約50名の方が足を運んでくださいり、血圧測定や健康相談を通じて地域の皆さんと交流しました。「毎日テレビ体操をしている」「ウォーキングを5,000歩続けている」など運動習慣について、「食事は薄味にしている」「コレステロールに気を付けて料理している」など食生活の工夫について、さまざまなお話を伺うことができました。日頃から健康に気を配り、元気に過ごすための工夫をされている方が多いことが印象的でした。

当院の理念である『地域医療と先進医療が調和する大学病院』を目指し、病院だけでなく地域に根ざした活動を続けることの大切さを改めて感じました。今後も地域医療に貢献できるよう、努力してまいります。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



イルミネーション(病棟側)

イルミネーション(南側)

## クリスマスイルミネーション点灯式を行いました!

総務課総務係

当院では、入院中の患者さんに心温まる時間を過ごしていただけます。毎年、冬の訪れとともに庭園をイルミネーションで彩っています。今年は11月21日(金)、日本庭園の藤棚付近で点灯式を開催し、小児病棟に入院中の患者さんと、院内保育所「うさぎ保育所」の子どもたちに参加いただきました。

点灯式では、全員でカウントダウンを行い、「点灯!」の掛け声とともにイルミネーションが一斉に輝き、庭園は幻想的な光に包まれました。続いて、うさぎ保育所の子どもたちによる元気いっぱいの歌声と、看護師チームによるハンドベルの美しい音色が響き渡り、会場全体に温かな雰囲気が広がりました。また、サンタクロースも登場し、少し早いクリスマス気分を分かち合うことができました。

イルミネーションは、1月18日(日)まで点灯しています。寒い日が続いますが、イルミネーションの光が、皆さまの心にやすらぎをもたらし、毎日が輝きに満ちたものとなりますよう心より願っています。



ハンドベル演奏のようす

問合せ先 総務課総務係 TEL: 0853-20-2015・2016



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



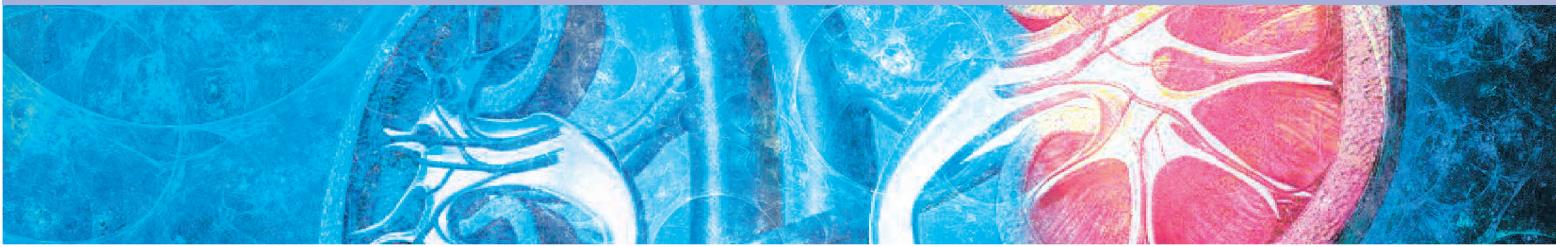
2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年1月

# ご報告



## 第34回中国腎不全研究会学術集会を開催しました！

腎臓内科 診療科長  
かんだ 神田 武志  
副診療科長  
よしの 吉野 純

この度、11月30日（日）に、広島コンベンションセンターにおいて第34回中国腎不全研究会学術集会を、島根県を代表して当科が主催いたしました。本会は、日本透析医学会の地方学術集会で、血液透析・腹膜透析・腎臓移植をはじめとする腎不全治療に関わる中国地方を代表する学術集会です。

大会スローガンは、「多職種連携による地域医療と先進医療の調和を目指して」といたしました。地域医療と先進医療の推進は当院の理念にもなっており、高齢化が進む中国地方の腎不全医療の地域課題、その解決策を討議する様々な企画を準備させて頂きました。当日は、約750名をこえる、医師、看護師、臨床工学技士、栄養士をはじめとする腎不全に関わる医療従事者が参加し、140を超える演題が発表されました。

当院からも多数参加し（写真1）、医学科生3名も症例報告を行いました（写真2）。また、血液浄化治療部の山根 桢太郎臨床工学技士が、優秀演題賞を受賞するという快挙を達成しました（写真3）。

特に、腎不全の多職種連携と先進医療に関する多くの演題発表があり、活発な議論が行われ、成功裡に大会を終えることが出来ました。本会が、中国地方そして日本における腎不全地域医療のさらなる発展の契機となることを祈念しております。

最後になりますが、本大会の企画にご協力いただき、ご参加いただきました大学を含む県内外の関係者にはこの場をかりて厚く御礼申し上げます。



問合せ先 腎臓内科 医局 TEL : 0853-20-2122



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年1月

# お知らせ

乳腺外来の  
受け入れ人数拡大

## 女性検査技師が初診時乳腺エコー検査を担当します！

乳腺外科 教授  
かどや 角舎 学行

当院乳腺外来では、昨年から本年にかけて新規患者数が着実に増加しており、地域の医療機関からの紹介が増えたことに加え、早期受診に対する患者さんの意識向上が背景にあると考えています。乳がんは早期発見・早期治療により予後が大きく改善する一方、症状を感じながらも受診をためらう方が一定数存在するのが現状です。当院では、受診しやすい環境を整えることで、そのハードルを少しでも下げる取り組みを進めてきました。

診療人数の増加に伴い、当院では迅速な診断と治療開始を実現するための体制整備を進めています。特に、今年度より検査部に所属する新田江里技師をはじめ、3名の検査技師が乳腺超音波検査を担当する体制となり、初診時の超音波検査を、より効率的に実施できるようになりました。これにより、検査待ち時間の短縮と検査枠の拡充が可能となり、増加する患者さんに迅速に対応できるようになっています。

さらに、必要に応じてマンモグラフィー、細胞診、針生検などの病理学的検査まで速やかに行う仕組みを整えており、画像診断から病理診断までを短期間で完結し、治療開始までの時間短縮を図っています。

また、乳房温存手術、センチネルリンパ節生検、放射線治療、薬物療法など、患者さん一人ひとりの状態に応じた多様な治療選択肢を提供しており、専門医・看護師・診療放射線技師が連携して診療にあたっています。

今後も、地域医療機関からのご紹介に迅速に対応し、患者さんに安心して治療を受けていただける外来運営に努めてまいります。



乳腺エコー担当技師

問合せ先 乳腺外科 TEL : 0853-20-2052



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年1月

# お知らせ

## 「島根県がん看護研修高齢者VR研修」を開催しました！

緩和ケアセンター 看護師長 みよし 三吉 ゆみこ 由美子



グループワークの様子



VR視聴の様子

島根県内のがん診療連携拠点病院が連携し、2017年から、がん看護研修を実施しています。今年度は、患者さん・ご家族の希望を看護職として理解し、支えることを目的とし、11月15日（土）は出雲保健所、11月29日（土）は浜田保健所の2会場で研修会を開きました。島根県西部での現地開催は今回が初めてです。

島根県の共催を受け、VRコンテンツ「救命医療における心肺蘇生」「がん告知」を用い、高齢がん患者さんの気持ちを追体験しました。島根県内の益田地区、浜田地区、大田邑智地区、出雲地区、松江地区、安来地区の病院、訪問看護ステーション、在宅クリニック等から多数の受講者がありました。

受講生からは、「患者さんの立場になった視点と、医療従事者の客観的な視点を、それぞれ体感する事が出来いろいろと感慨深いものでした。」「実際に体験して、患者さんの立場に立つことができ、目で見て、耳で聞いて、心で感じることができとても良かったです。貴重な経験になりました。」「患者さん側になって医療を見る、ACP（アドバンス・ケア・プランニング＝人生会議）を感じるきっかけを考える良い機会になった。」などの感想がありました。2会場で、35名の看護師がグループワークを重ねお互いの繋がりが強くなりました。

今後は、がん看護の質の向上のために、受講生と力を合わせて一歩ずつ前進し、次年度も島根県内に発信していきたいと考えています。

問合せ先 緩和ケアセンター TEL : 0853-20-2441



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年1月

# お知らせ

## 胆嚢炎に対し新たな治療を開始しています

消化器内科 学内講師 ふくば のぶひこ 福庭 暁彦

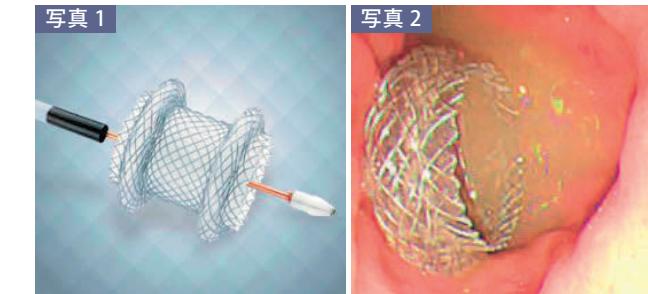


写真 1  
ボストンサイエンティフィック社から提供

写真 2

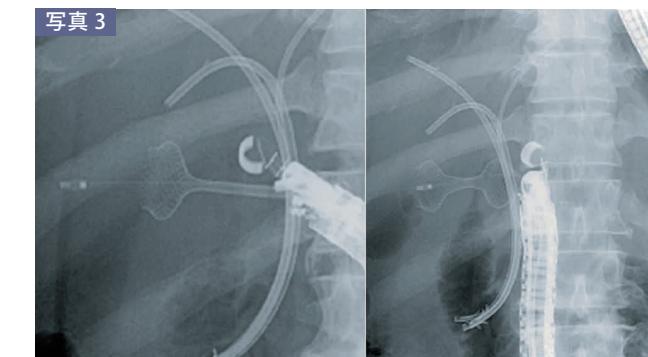


写真 3  
当科の症例 十二指腸から胆嚢にHot AXIOS™を留置した

当院消化器内科では、超音波内視鏡を用いた高度な治療を実施しています。超音波内視鏡とは、先端に超音波装置が付属した内視鏡で、通常の内視鏡画像に加えて超音波による断層画像を観察しながら操作する機器です。2025年6月から島根県内では唯一、Hot AXIOS™による胆嚢炎に対する治療が実施できる体制が整いました。胆嚢炎に対しては基本的な治療は手術になりますが、様々な基礎疾患があって手術が難しい患者さんにとってHot AXIOS™は手術に代わる良い治療法です。Hot AXIOS™はダンベル型の形状をしている金属製の筒であり、超音波内視鏡で観察しながら胃や十二指腸などの消化管と胆嚢の壁を貫いて留置します。これによって胆嚢の中にたまつた感染胆汁を十二指腸や胃に排泄させます（写真1、2、3）。

これまで手術ができない胆嚢炎の患者さんには、皮膚の上から管を挿入して体外に胆汁を排出する「外瘻」が必要でした。しかし、超音波内視鏡の普及により、体外に管を出すことなく治療することができ、手術が難しい患者さんにとっては新たな治療選択肢となります。

当院ではHot AXIOS™以外にも超音波内視鏡を用いた治療が年々増加しており、今後さらに多くのニーズが見込まれます。日々研鑽を重ねて、最新の医療を安全かつ確実に提供してまいります。

問合せ先 消化器内科医局 TEL : 0853-20-2190



2026年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

